

【昭和三陸地震津波】

昭和8(1933)年3月3日午前2時31分、強い地震が発生しました。津波を警戒して高台に避難した人もいたようですが、地震後しばらくたっても海に変化は見られず、人々が再び眠りについたら、津波が沿岸の村や町を襲いました。

特に大きな被害を受けた唐丹町本郷では、人口の約2割にあたる118人が犠牲となりました。また釜石町では津波による火災が発生、中心市街地は壊滅状態となりました。



仲町大通り（現在の浜町1丁目～2丁目）



尾崎神社御拝殿付近
（現在の浜町1丁目市営ビル）

発生日時：1933年3月3日

2時31分

発生場所：岩手県東沖

日本海溝付近

規模：マグニチュード

8.1

最大震度：5

最大波高：28.7m

三陸町綾里

釜石で観測された波高

釜石町釜石 5.9m

鵜住居村両石 10.5m

町村部落名		津波前の人口	死者	行方不明	重傷	軽傷
釜石町	釜石	23,946	22	8	15	104
	平田	846	1			
	白浜	354	3	4	1	
鵜住居村	両石	750	2	1	3	2
	片岸	375				
	室浜	356	1	3	1	10
	箱崎	635				1
	根浜	102				
	桑ノ浜	117				
	白浜	386				
	仮宿	76				
唐丹村	小白浜	871	3	3	17	3
	本郷	613	118	210		11
	花露辺	397	6	4		1
	片岸	625	1	4		2
	荒川	494	7	3		
	大石	694				
合計		31,637	164	240	37	134

【被害状況】 岩手県昭和震災誌より